

国際シンポジウム “PEOPLE AT THE CENTRE” : 21 世紀の医療と医療システムを求めて
会場：東京国際フォーラム ホール棟 B ブロック
日時 2007 年 11 月 25 日 (日)

プログラム

8 : 30~9 : 20 開会式 会場：B7 (1)		
08 : 30	挨拶	リンダ・ミラン WHO西太平洋事務局健康地域開発部長 高久史磨 医療の質・安全学会理事長
	祝辞	ジョー・ハクネス 国際患者団体連合理事長 唐澤祥人 日本医師会会長 舩添要一 厚生労働大臣
09 : 05	基調講演	尾身 茂 世界保健機関西太平洋地域事務局長
9 : 20~12 : 30 全体会合 会場：B7 (1)		
09 : 20	テーマ別プレゼンテーション (第1部)	
	テーマ1 : 「正しい知識・情報を持ち、権限を付与された個人、家族、地域社会」	アンジェラ・コトラー 欧州ピッカー研究所所長
	テーマ2 : 「有能で対応力ある医療従事者」	アレジャンドロ・ディゾン フィリピン・セント・ルークス医療センター医療改善会議議長、外科局長
10 : 00 休憩		
10 : 25	テーマ別プレゼンテーション (第2部)	
	テーマ3 : 「効果的で効率的な医療組織・機関」	ロビン・ヤングストン ワイタケレ病院 指導臨床医 (クリニカル・リーダー) ニュージーランド・指導臨床医協会 創設者/理事長
	テーマ4 : 「『“人” が中心の医療』を支える医療システム」	金昌燁 大韓民国健康保険審査評価院院長 兼ソウル国立大学保健大学院保健政策・経営学研究室助教授
11 : 05	パネルディスカッション	
11 : 40	『“人” が中心の医療』に関する宣言	
12 : 00	高村正彦 外務大臣特別スピーチ	
12 : 30~13 : 30 昼食		

**スローガンからアクションへ：「人」が中心の医療」をめざして
ーベストプラクティスの交流とワークショップー**

会場：B7 (1) (言語：日本語)

会場：B5 (言語：英語)

13：30～13：50 「新しい医療のかたち」表彰式

紹介 大熊由紀子（国際医療福祉大学大学院教授）

13：30～16：45

「人」が中心の医療」実現促進のための
国際行動計画（WHO/WPRO）

13：50～16：45 医療安全推進週間公開フォーラム
「みんなで創ろう、私たちの医療ー患者・医療者・地域社会の取組み」

司会：

ディーン・シュウエイ

WHO/WPRO保健サービス開発課長

ドン・マッセソン

ニュージーランド保健省国際課長

13：50～14：00

1. 開会の辞

岡本 浩二（厚生労働省大臣官房参事官）

上原 鳴夫（医療の質・安全学会第2回学術集会会長）

13：30 インTRODクシヨN

13：40

ベンデット・サラセノ

WHO精神保健・薬物乱用部長

14：00

ジョー・ハクネス

国際患者団体連合理事長

14：20

ジェームス・キリングスワース

ジョイント・コミッション・インターナ

ショナル専務理事

14：40

リアム・ドナルドソン卿

WHO患者安全世界共同行動プログラム

議長

14：00～15：20

2. 患者本位の医療をめざす患者・医療者・地域社会の取組み

司会 佐原 康之（厚生労働省医政局医療安全推進室室長）

丸木 一成（国際医療福祉大学大学院教授）

(1) 患者さんの取組み；本田麻由美（読売新聞社記者）

(2) 医療機関の取組み；岡本左和子（元ジョンズホプキンス大学病院Patient Advocate）

(3) 地域社会の取組み；前村 聡（日本経済新聞社記者）

ー休憩10分ー

15：30 分科会

ファシリテーター

ビビアン・リン

ラ・トゥループ大学公衆衛生学部

スーザン・メルカド

WHO神戸センタープログラム

コーディネーター

15：30～16：45

3. パネル討議ディスカッション

「パートナーシップに基づく新しい医療のかたちを創るために」

司会 開原 成允（国際医療福祉大学大学院院長）

山内 桂子（医療の質・安全学会パートナーシップ・プログラム代表）

パネリスト

・デボラ・ホフマン

（ダナ・ファーバーがん研究所患者と家族のためのセンター）

・赤津 晴子（ピッツバーグ大学 内分泌代謝内科 准教授）

・藤井 裕志（下関市医療相談窓口（下関市立下関保健所）主任）

・伊藤 雅治（（社）全国社会保険協会連合会理事長）

・大平 勝美（社会福祉法人はばたき福祉事業団理事長）

・「新しい医療のかたち」受賞団体代表

16：40 まとめ

10：30～16：00 併催展示：「私たちの活動」展 会場：B7 (2)